

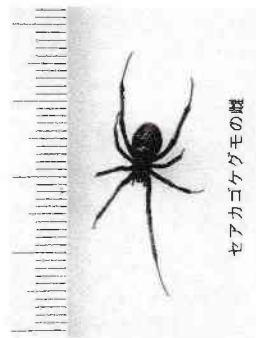
セアカゴケグモに気をつけましょう！

セアカゴケグモは、本来オーストラリア、東南アジアなどの熱帯、亜熱帯地域に生息する節グモです。習性はおとなしく、直接さわらない限り、かまれることはないといわれていますが、万一の被害を防ぐため正しい知識を持ちましょう。

形態

雌：体長(脚を含まない)約1cm。
全体黒色で、背面中央に赤色の斑紋があります。

雄：体長約3mm。
雌に比べ腹部が細長く、淡色で、白みがあった不規則な斑紋があります。



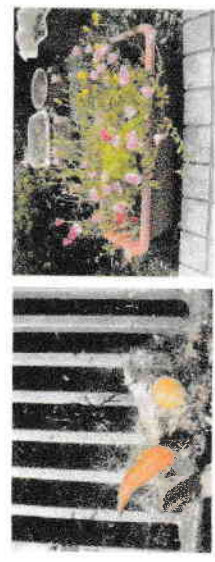
セアカゴケグモの雌



雌雄ともに、腹部腹面に赤または多少淡色の砂時計形または鼓形の斑紋があり、ゴケグモ属を他のクモと見分けるポイントです。

生息場所

御溝の内部やそのフタのすきま、フェンスの基部、プランターの持ち手や裏、花壇のブロックの内部、墓石のすきまなど、日当たりのよい場所にある人工構造物のすきまや内部に、不規則な形のクモの巣を作っていることが多いです。樹木や草むらにはほとんど生息しません。



御溝のフタの裏



フェンスの基部

セアカゴケグモにかまれないための注意

- セアカゴケグモを見つけても、素手でさわったり、つまみ取ったりしないでください。
- 屋外での作業には軍手などの手袋を使用しましょう。
- クモの生息しそうな場所をこまめに清掃するなど、クモの棲みにくい環境を作りましょう。
- 市販の家庭用殺虫剤を直接噴霧したり、靴で踏み潰すことにより駆除できます。網のう(卵が入っている袋)は、はしなどで取り出して踏み潰すとよいでしょう。



卵のう

かまれた時の症状

かまれた場合、針で刺されたような痛みを感じ、その後かまれた場所が腫れたりします(すぐに痛みを感じないこともあります)。症状のピークは3~4時間で、数時間から数日で症状は軽減しますが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがあります。

かまれた時の処置

かまれた箇所を水で洗い、患部を冷やします。多少出血があっても、包帯や止血帯はしないほうがよいでしょう。できるだけ早く早く医療機関で治療を受けることが大切です。かまれたクモを殺して持参すると、適切な治療につながります。



素手で触らばいい!

衛生害虫の相談は、保健センターへ

- 千種保健センター 環境業務室 (担当区：千種区、瑞穂区、名東区) ☎ 753-1973
- 中村保健センター 環境業務室 (担当区：西区、中村区、熱田区、中川区) ☎ 481-2217
- 中保健康センター (担当区：東区、北区、中区、守山区) 環境業務室 ☎ 265-2256
- 南保健康センター (担当区：港区、南区、緑区、天白区) 環境業務室 ☎ 614-2862

※上記以外の保健センターでもお困り相談は実施しますが、現地調査などは上記4保健センターに依頼します。

このリーフレットは古紙ペーパーを含む再生紙を使用しています。